

## 久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 令和4年度学校評価委員会報告書

今年度も新型コロナウイルス感染対策のため委員会は Zoom ミーティング形式にて実施した。また、各委員には事前に下記資料を送付し、各委員からの意見が短時間で確認できるように配慮を行った。

### 〈配布資料〉

- ・ 令和4年度学校自己評価報告書
- ・ 資料1 令和5年3月 第69回臨床検査技師国家試験結果
- ・ 資料2 令和4年度 就職・進学先一覧
- ・ 資料3 令和5年度入学試験結果

1. 日 時 令和5年6月5日（月） 19：00～19：40
2. 場 所 久留米大学教育2号館1階教務事務室  
(新型コロナウイルス感染対策のため委員会は Zoom ミーティング形式で開催)
3. 出席者 真茅 孝志委員 純真学園大学保健医療学部医療工学科（教授）  
浮池 俊憲委員 卒業生代表  
田中 留美子委員 保護者代表
- 西 昭徳 校長  
武谷 三恵 教務主任  
中島 俊弘 医学部事務部専門学校事務室 事務室参事

### 4. 次 第

- (1) 校長挨拶
- (2) 出席委員挨拶
- (3) 報告書説明

自己評価10項目のうち、教育理念・目標及び教育活動の2項目については教務主任から、その他の8項目については事務室参事から報告書の概要を説明。

#### (4) 質疑応答（主な意見交換）

- ・ (1) 教育理念・目標について
  - c 本校の母体である久留米大学の将来構想として、次世代型臨床検査技師の育成へ対応するため、令和6年4月、医学部内に『医療検査学科（仮称）』を開設することを目指し、令和5年5月時点で文部科学省に設置認可中であることを改めて説明。

新学科では、本大学の特色を活かし、医学部、附置研究所及び文系学部の教育力を活用し、質の高いメディカルテクノロジー教育、医学部連携プログラムによる多職種連携教育、全学的分医融合プロ

グラムによるヘルスサイエンス教育を行い、社会のニーズに対応し、医療や医学研究へ貢献できる臨床検査技師を養成することを目的としていることを説明。

また、学科への移行に伴い、令和 6 年度以降は本校の入学者募集を停止することとなった経緯について報告。

- d 教育目標と育成人材像が業界ニーズを踏まえているかという項目については、令和 3 年 10 月に医師の働き方改革に基づく臨床検査技師の業務拡大（タスク・シフト/シェアリング）を定めた法改正が施行されたことに伴い、令和 4 年度以降の入学生を対象とした臨床検査技師養成カリキュラムを改正したことを報告。

また、令和 3 年度までの改正前カリキュラムが適用される学生についても、このような情勢を随時、講義で紹介し、新カリキュラムで新たに教育すべき必須項目となった一部のトピックス（『認知症検査』、『病理診断における遺伝子解析の意義』等）について概説を学ぶ授業を設けるなど社会の動向を反映させた教育内容へとアップデートを行っていることを説明。

なお、令和 3 年度までに臨床検査技師養成課程の履修を開始した学生は、令和 6 年度臨床検査技師国家試験の出願にあたり、あらかじめ、厚生労働省指定研修を受講することが義務付けられているため、4 年制の臨床検査技師養成校ではカリキュラムなどでの対応を求められている旨の情報提供が真茅委員からあった。

- ・ (3) 教育活動について

- b 令和 4 年度以降の入学生から適用される臨床検査技師学校養成所指定規則及び臨床検査技師養成所指導ガイドラインでは、従来型カリキュラムには含まれていなかった教育内容が追加されたが、新カリキュラムにおいても卒業までの総単位数は 118 単位に留め、学生の自学自修時間を確保し、履修内容の理解を深められるように各科目責任者と協議を行い、学習内容と履修順序などを見直すことで授業のスリム化と効率化を図ったことを説明。

- ・ (4) 学修成果について

- a 資格取得率の向上については、令和 4 年度の国家試験合格率は新卒者 100%（27 名中 27 名合格）であり、全国新卒者の平均 89.5%を上回ったこと、既卒者の全国合格率は 29.3%であったが、本校既卒者合格率は 80%であったことを説明。令和 4 年度の国家試験においても本校は高位・安定した合格率がキープされていることを報告。

- b 就職支援については、令和 4 年度卒業生も希望する学生全員が就職を実現させたことを報告。

- ・ (5) 学生支援について
  - f 卒業生への支援体制について、前年度の国家試験不合格者4名全員合格という成果については、同窓生の方々にもご協力いただきオンライン講義を早期から実施できたことが大きく貢献している旨を説明し、改めてお礼を申し上げた。  
浮池委員からは、同窓生として今後も既卒生や成績不振者等への支援を継続していきたい旨を報告。
  
- ・ (10) 社会貢献・地域貢献について
  - a わが国の臨床検査技師養成教育の質向上と精度の高い国家試験の実現を促すことを目的として、令和3年度より山陽女子短期大学教員を主とする国家試験成績解析研究チームが、全国の養成校の成績について解析・フィードバックを行っている。令和4年12月から本校の教員が、この研究チームの正式メンバーとして加わり、データ収集・解析を行うために参加していることを説明。
  
  - b 平成4年度は3年ぶりのオープンキャンパスを実施することができた。2年生を中心に一部1年生及び3年生も加わり、課外活動としての企画・準備に携わり、来場者へ実習・実技体験コーナーでのガイドを行うなど大変好評であったことを報告。

最後に、西校長から来年度は医学部医療検査学科に移行し、専門学校学生と医療検査学科の学生を相互に指導していくこととなるが、学生へのサポートもより充実させていく予定であるため、今後ご理解とご支援をいただきたい旨を説明し委員の了承が得られた。

以上の結果を踏まえ、学校評価委員会としての報告として公開することについて、委員の了承が得られた。